

● 展覧会ビジネス

# グループ9社が集結、ワンソニーで仕掛ける「恐竜科学博」

**2** 019年の「恐竜博」が約68万人を動員するなど、恐竜は日本の展示会でも屈指の人気コンテンツだ。今夏、注目されるのが、7月17日からパシフィコ横浜にてスタートする「Sony presents DinoScience 恐竜科学博」(以下、恐竜科学博)。

「恐竜科学博」(以下、恐竜科学博)は「恐竜くん」(以下、恐竜科学博)がグループ各社の総力を挙げて取り組む一大プロジェクトだ。

恐竜科学博は、白亜紀の終盤に北アメリカ大陸ができることととも消滅した「ララミディア大陸」に生きた恐竜にフォーカス。世界で最も完全に美しいと称される、米ヒューストン自然科学博物館所蔵のトリケラトプスの実物化石「レイン」が日本初公開となるほか、脳腫瘍の跡があるゴルゴサウルスなど珍しい復元全身骨格がそろった。企画・監修は「恐竜くん」の愛称で知られるサイエンスコミュニケーター・田中真士氏が務める。

## 最新技術を各社が投入へ

このプロジェクトは、ソニーグループの総合広告会社「フロンテッジ」の森田共美氏と「ソニー・ミュージックエンタテインメント」(以下、SME)の野田由紀氏が中心となって4年ほど前に始動。徐々にグループ各社を巻き込み、エレクトロニクス事業を担うソニーなど、グループ9社が主催に名を連ねることとなった。このようなグループを横断しての取り組みは、創業以来初だという。

「海外では、恐竜は科学に関心を持つきっかけとなる。サイエンスゲート」と言われています。グループを挙げてのプロジェクトになった1つ目の理由は、教育とエンタテインメントを掛け合わせたエデュテインメントに、ソニーとして取り組みたいと考えた点です。また、恐竜は各社の技術投入できるコンテンツでもある点も大きなポイントです(森田氏)。



小坂菜緒 日向坂46のメンバー。小学生の理科の授業をきっかけに、休日に博物館へ行くほどの恐竜好きになった。彼女が描いたトリケラトプスのイラストをもとにした限定グッズも販売される。

恐竜くん 企画・監修を務める「恐竜くん」こと田中真士氏。恐竜研究で有名なアルバータ大学で学ぶ。恐竜展の企画・監修、トークショーやワークショップなどの開催などを手掛ける。



上)ほぼ完璧な形状を保って発掘された、全長7m×高さ3mのトリケラトプスの実物化石「レイン」が日本初公開。右)最新の研究に基づき、当時を精緻に再現したCGを大画面で体験できるコーナーなども用意する(画面は製作段階のもの)。



会場の様子を Xperia スマートフォンでライブ撮影し、リアルタイムに配信するオンラインツアーも実施。会場では近づけないほどの至近距離や見えないアングルから標本を撮影して、見どころを伝えていく。

## Sony presents DinoScience 恐竜科学博 ～ララミディア大陸の恐竜物語～

トリケラトプス「レイン」を発掘した「ブラックヒルズ地質学研究所」(米サウスダコタ州、通称BHI)と「ヒューストン自然科学博物館」が特別協力。7月17日から9月12日までパシフィコ横浜 展示ホールAにて開催(会期中無休、土・日・祝日・8月7日～8月15日は事前予約・日時指定入場制)。公式サイトは<https://dino-science.com>

「海外では、恐竜は科学に関心を持つきっかけとなる。サイエンスゲート」と言われています。グループを挙げてのプロジェクトになった1つ目の理由は、教育とエンタテインメントを掛け合わせたエデュテインメントに、ソニーとして取り組みたいと考えた点です。また、恐竜は各社の技術投入できるコンテンツでもある点も大きなポイントです(森田氏)。

野田氏も「SMEは、17年の大回顧展「DAVID BOWIE is」などイベント事業にも取り組んできましたが、ソフトの開発がメイン。恐竜くんから「ソニーが持つデジタルの技術を使って、新しい恐竜の見せ方を実現したい」という提案があり、各社に声をかけ、ビッグプロジェクトとなったんです」と語る。

この言葉通り、「恐竜科学博」は最新技術を駆使した新しい体験にあふれる。例えば、最新研究によって明らかになった恐竜の構造や質感、動き方など精密に再現したCG映像を製作したのは、最先端の映像技術を有する「ソニーPCL」。音響や振動などのテクニカル面はソニーが担当。また、立体映像を裸眼で見ることができるといった空間再現ディスプレイ「ELF・SR1」を使った恐竜の3DCGモデルも展示される。

「恐竜の面白いところは、毎年研究が進み、コンテンツが進化していく点。新しい発見などをテクノロジーを用いて伝えていける、ソニーらしいコンテンツではないかと考えています」(森田氏)

19年、ソニーは「クリエイティブイティ」とテクノロジーの力で、世界を感動で満たすと存在意義を定義、今年4月には本社機能を「ソニーグループ」に集約し、新たな体制をスタートさせた。シナジーを生んだ最初の例とも言える今回の恐竜科学博で培った交流を生かして、ソニーグループでは様々な組み合わせによる取り組みにすでに着手しているという。